府立布施高等学校
校長　野口　幸一

平成 31 年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

未来予測が困難な後期近代社会を生き抜くために、グローバルかつローカルな視点を持ち、新たな価値を創造する力と社会を生き抜く人間力を養い、社会をリードする人材を輩出する学校をめざす。

１．育てたい生徒の資質は次の４つ

①流動化する社会の中でも「世の為、人の為」という原点になる志をもち、己を鍛える生徒　（志を持ち、己を鍛える）

②幅広い教養（リベラル・アーツ）を身につけ、知性を磨き、新たな価値を創造する生徒　（知性を磨き、価値を創造する）

③己を知り、社会を知り、世界を知り、人生を描くことが出来る生徒　（己を知り、人生を描く）

④人と繋がり、地域・社会と繋がり、世界と繋がる、心身ともに健全で規律ある生徒　（人・社会・世界と繋がる）

２．めざすべき教職員集団の４つの観点

①常に「生徒のために」の原点を忘れず、新たな教育課題に果敢に挑戦する教職員集団　（果敢に挑戦する）

②互いに成長しあい、学びあい、切磋琢磨する教職員集団　（切磋琢磨する）

③同僚性に富み、互いに支えあい、強みを活かし、弱みを克服する教職員集団　（同僚性に富む）

④互いの役割分担を認め、相互理解するチーム力のある教職員集団　（チーム力がある）

２　中期的目標

１．思考力・判断力・表現力を養い主体的に学ぶ力を育成する。

（１）進路実現に結びつく質の高い授業を生徒に提供する。

ア　授業アンケートのデータおよび自由記述にみられる生徒の生の声に真摯に向き合い、授業見学、公開授業、研究授業を、教科を中心に組織的に取り組む

※学校教育自己診断「学力のつく授業が多い」（H30 年度肯定感 63.9%）「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく」（同 43.7%）を毎年３ポイントずつ引き上げ、2021 年度には、各項目を 10 ポイント近く向上させる。

（２）社会とのトランジションを見据え、知識・技能の習得だけではなく、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう社会性を意識し、アクティブ・ラーニング型授業（以下、ＡＬまたはＡＬ型授業とする）を促進する。

ア　知識構成型ジグソー法をはじめ、現在開発されているＡＬ型授業を積極的に取りいれ、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改革に取り組む。

※学校教育自己診断の「思考力・判断力・表現力を養う工夫をしている先生が多い」（H30 年度肯定感 58.4%）、ＡＬ型授業の実践アンケート「ＡＬ型授業を実践した」（H30 年度 45.6%）から毎年３ポイントずつ引き上げる。

（３）自ら課題を見つけ探究心をもって主体的に学ぶ力を育てる。

ア　クエスト・エデュケーション（以下ＱＥとする）を中心とした探究的な学びを推進し、学校内外の授業以外の学びの場を提供することで、学ぶことの興味関心をそだて、自己のキャリア形成と関連付けた主体的で探究的な学びを促進する。

※学校教育自己診断「授業以外にも興味関心を持たせる学びの場がある」（H30 年度肯定感 49.2%）をH30 年度の肯定感から毎年３ポイントずつ引き上げる。ＱＥに関する肯定感の現状（H30 年度 84.2%）を維持する

イ　朝の小テストを改善し、読解力の育成の一助とする。

※「「朝の小テスト」は学力の向上や興味関心の向上に役立っている」（H30 年度肯定感 58.7%）から毎年３ポイントずつ引き上げる。

ウ　様々な学びの場を提供し、自学自習の力を養う。具体的には、①講習・補習の充実②ＡＬ型学習ができるラーニングコモンズ（以下ＬＣとする）の利用③教育産業と連携したＶＯＤ型学習の推進及び進学講習の充実を図る。

※学校教育自己診断の「補習や補講が生徒のニーズに沿って行われている」（H30 年度肯定感 69.4%）「自習室・ＬＣの開放は、学習時間の確保に役立っている」（H30 年度利用者肯定感 48.1%）を毎年３ポイントずつ引き上げる。「ＶＯＤ学習は、学力の向上に役立っている」を新設し、平成 31 年度肯定感 50%以上、毎年３ポイント以上引き上げ、2021 年度には 60%以上の肯定感に引き上げる。

２．高い志を持ち進路実現をするためのキャリア教育を充実する。

（１）系統的なキャリア教育の充実を通じて、進路実現の意識の醸成を行う。

ア　総合的な学習の時間（Ｆｒｏｍ　Ｎｏｗ）や進路別分野別説明会・大学見学・卒業生との対話集会等の充実を図る。

※学校教育自己診断の「ホームルームや『総合的な学習の時間= FROM NOW 』などで進路や生き方について考える機会がある」（H30 肯定感 76.3%）を３年間で 80%以上にする。

イ　個々の生徒の学習状況・進路志望状況を把握し、進路実現への道筋を明確にするキャリアカウンセリングを充実する。

※学校教育自己診断の「学力学習実態調査、実力テストや模試は、学習に取り組む態度を改善するために役立っている」（H30 年度肯定感 55.7%）を毎年３ポイントずつ引き上げる。

（２）二つのコース間の切磋琢磨を促進し、進路実績の向上をめざす

ア　二つのコースの充実及びコース間の切磋琢磨を促進する。特にスタンダードコースのキャリア教育を進め、スタンダードコースを活性化させる。

※学校教育自己診断の「本校のコース（アドバンスト・スタンダード両コース）は、学習環境の充実や進路実現に役立っている」（H30 年度肯定感 71.3%）を毎年３ポイントずつ引き上げる。特に、同項目の両コース間の差を３年間で５ポイント以内（H30 年度アドバンストコースの肯定感－スタンダードコースの肯定感＝12.3 ポイント差）にする。

イ　国公立大学及び難関私立大学の進学実績の向上を図る。

※合格者実人数 ： 2021 年度卒 国公立（25）人、関関同立近（150）人以上をめざす。（H30 年度卒 現役実人数：国公立（17）名、関関同立近（99）名）

府立布施高等学校

３．人と繋がり、社会と繋がり、世界と繋がる力の育成をめざす。

（１）自主活動を推進発展させる

ア　行事・クラブ活動などの自主活動を促進し、コミュニケーション能力、組織力、マネジメント力を養う。

※学校教育自己診断の自主活動関連の項目を毎年３ポイントずつ引き上げる。

（２）グローバル資質の育成を推進する。

ア　海外語学研修、留学生の受け入れなどを促進し、グローバル資質の育成を行う。

※学校教育自己診断の「国際理解教育に力を入れている」（H30 年度肯定感 63.9%）を 70%以上にする。

（３）地域連携強化によるローカル資質の育成の推進

ア　保護者、中学生徒、中学校教員への学校説明会の充実をはかり、H31 年度入試の志願倍率を今後も維持する。

イ　学校運営協議会の発足を受け、司馬遼太郎館との連携をはじめ、中河地地区の大学、公共施設、民間団体などとの連携を図り、コミュニティスクールをめざす。

※学校教育自己診断に「本校は、さまざまな地域の活動に参加・貢献している」（H30 年度肯定感 50.12%）を、H30 年度肯定感より毎年３ポイントずつ引き上げる。

ウ　小中学校、地域、地元自治体と連携した防災活動を充実させる。

※学校教育自己診断「本校で、地震や火災の際の対応は知らされている」（H30 年度肯定感 77.3%）を維持する。

（４）自己を厳しく律する力と自尊心を育成する。

ア　挨拶指導・遅刻指導を促進する

※年間遅刻回数を 2000 以下にする（H30 年度（2327）件）

イ　教育相談委員会の活性化、個別生徒支援の充実を図る。

※学校教育自己診断における「学校は悩みや相談に親身になって応じてくれる」（H30 年度肯定感 64.0%）を毎年３ポイントずつ引き上げる。

４.教職員集団「チーム布施高校」の育成

（１）教育課題に果敢に取り組む教職員集団の育成

ア　新たな教育課題にチャレンジし、教職員間が切磋琢磨しながら、同僚性に富んだチームワークのある教職員集団の育成を図る。

※学校教育自己診断「本校がめざす学校像を実現するために、教職員は同僚性をたかめ、協力して教育活動を行っている。」（H30 年度肯定感 56.3%）を毎年３ポイントずつ引き上げる。

イ　教職員の授業力・キャリア教育力の向上を図る。

※学校教育自己診断の関連項目を毎年３ポイントずつ引き上げる。

ウ　校内研修の開催、校外研修への参加、研究授業の実施を促進し、高大接続改革など新たな教育課題に対応できる教職員集団の育成を図る。

※学校教育自己診断「校内研修組織が確立し，計画的に研修が実施されている」（H30 年度肯定感 56.3%）を毎年３ポイントずつ引き上げる。

エ　運営委員会の活性化、ミドルリーダーの育成、若手の力量向上を図る。

※「運営委員会は、充分に機能している」（H30 年度肯定感 72.8%）を、H30 年度の肯定感から毎年３ポイントずつ引き上げる。また、「本校は計画的に人材育成を行っている」(H30 年度肯定感 62.5%）を、H30 年度の肯定感から毎年３ポイントずつ引き上げる。

オ　仕事の平準化、合理化を推進し、「働き方改革」を行う。

※仕事の平準化、合理化に関する現状分析を行い、中期目標を設定すると共に、担任と担任外の仕事格差、教材の共有化を促進し、仕事の負担軽減を行う。「教材の共有化」(H30 肯定感 37.5%)「担任と担任外の仕事格差の縮小」(H30 肯定感 15.1%）を毎年 3 ポイントずつ引き上げる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［令和元年 11 月実施分］	学校運営協議会からの意見
【学習指導等】 ・「学力のつく授業が多い」と回答した生徒は 73%で６ポイント向上した。 ・「授業における思考力・判断力・表現力の育成」について、生徒の肯定的な回答は 64%で５ポイント向上した。 ・「授業以外の知的な興味・関心を持つ機会」について、生徒の肯定的な回答は 54%で４ポイント向上したが、教育活動全般において、この数値をさらに伸ばす必要がある。 ・「本校の学習だけで進路達成に必要な学力が身につく」ことについて、肯定的な回答が教員向けで 66%であるのに対し、生徒向けでは 50%、保護者向けでは 34%にとどまり、すべて昨年より下回った。生徒・保護者に信頼してもらえるような取組みと努力が必要である。 ・「本校のコースについて、学習環境の充実や進路実現に役立っている」点について、生徒の肯定的な回答は 75%で６ポイント向上した。 【生徒指導等】 ・「悩みや相談に親身になって応じてくれる」と回答した生徒は 68%で４ポイント向上した。 ・「ＨＲや総合的な学習（探究）の時間などで進路や生き方を考える機会がある」と回答した生徒は 78%で４ポイント向上した。 【学校運営】 ・「本校のＷｅｂページは充実しており、情報量も豊富である」について、肯定的な回答が生徒向けでは 47%、保護者向けでは 45%にとどまり、すべて昨年より下回っており、改善することが急務である。 ・「教職員の同僚性」について肯定的な回答は 51%で 14 ポイント向上したが、より良い学校にするため、さらなる改善が必要である。	第１回（６/25） 〇平成 31 年度学校経営計画について ・「探求心をもって主体的に学ぶ力の育成」を推進することは評価できるが、何事もテーマに関して「事前学習」をすることが重要であり、その点を意識させるべきである。 ・探求的な学習を実践する際に、「企画書」や「報告書」を書かせることで、本校の特徴である行事や部活動の取組みと学力の向上がリンクすると思われる。 ・様々な取組みを実施する際、「働き方改革」の観点を忘れないようにしてもらいたい。教科を超えた『チーム布施』といったコンセプトや外部の力を借りる工夫をすべきである。 〇生徒指導・進路指導（キャリア教育）について ・遅刻を減らすためには、遅刻がなぜいけないのかを生徒に認識させることが肝要である。 ・キャリア教育では、親や先生以外の大人と触れ合う取組みを進めてもらいたい。 第２回（11/７） 〇令和元年度学校経営計画の進捗について ・教育活動を実施するにあたり、地域住民・保護者・教員ＯＢやキャリアコーディネータなど専門家の力を借り、教員の負担を軽減しながら効率的に進めてもらいたい。 ・学習については、「学ぶ動機付け」が重要であり、生活情報などのデータと成績との相関を駆使させる必要がある。また、振り返りを行う機会を設け、習慣づけることが大事。 第３回（２/20） 〇自己評価に関する評価 ・生徒及び保護者の学校生活全般に対する満足度が９割近くあることや、授業に関するアンケート結果がほとんどの項目で改善されていることは非常に評価できることであり、教職員が努力されている結果だと思う。 ・Ｗｅｂページに関する評価が低いことを受けリニューアルするとのことだが、その際は閲覧者のニーズを把握するとともに、生徒が作成に直接関与することが大切。 ・読解力の向上のための取組みや図書室の充実を推進していただきたい。

府立布施高等学校

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1.思考力・判断力・表現力を養い主体的に学ぶ力を育成する。	（１）質の高い授業の提供 ア・授業アンケートの活用及び研究授業などの活性化	（１） ア・年２回の授業アンケートに自由記述を行い、生徒の声に真摯に向き合う。 ・授業見学、公開授業、研究授業を、教科を中心に組織的に取り組む。	（１） ア・学校教育自己診断「学力のつく授業が多い（肯定感63.9%(H30)）「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく」（肯定感 43.7%（H30））を３ポイント上昇	（１） ア・学校教育自己診断「学力のつく授業が多い」は授業改善のための工夫により72.6%と 8.7 ポイント上昇した。(◎) ・「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく」は 44.9%で 1.2 ポイント上昇にとどまった。(△)
	（２）ＡＬ型授業の促進 ア・ＡＬ型授業を取りいれ、授業改革に取り組む	（２） ア・校内外の研修に参加・実施し、ＡＬ型授業の研究授業を実施する。	（２） ア・学校教育自己診断「思考力・判断力・表現力を養う工夫をしている先生が多い」（肯定感 58.4%(H30)）を３ポイント上昇	（２） ア・学校教育自己診断「思考力・判断力・表現力を養う工夫をしている先生が多い」はＡＬ型授業の推進により 63.9%と 5.5 ポイント上昇した。(◎)
	（３）探究心をもって主体的に学ぶ力の育成 ア・キャリア形成と関連付けた主体的な学びの促進 イ・「朝の小テスト」の改善実施 ウ・自学自習の力を養う	（３） ア・ＱＥを実践すると共に、学校内外の授業以外の学びの場に積極的に参加し、学ぶことの興味関心をそだて、自己のキャリア形成と関連付けた主体的な学びを促進する。 イ・朝の小テストに改善し、読解力の育成の一助とする。 ウ・①講習・補習の充実 ②ラーニングコモンズの積極的活用 ③教育産業と連携したＶＯＤ型学習の推進 ④進学講習の充実	（３） ア・学校教育自己診断「授業以外にも興味関心を持たせる学びの場がある」(肯定感 49.2%（H30））を３ポイント上昇 イ・学校教育自己診断「朝の小テストは学力の向上や興味関心の向上に役立っている」（肯定感 58.7%（H30）を３ポイント上昇 ウ・学校教育自己診断「補習や補講が生徒のニーズに沿って行われている」(肯定感 69.4%（H30））「自習室・ＬＣの開放は、学習時間の確保に役立っている」（肯定感 48.1%（H30）を３ポイント上昇	（３） ア・学校教育自己診断「授業以外にも興味関心を持たせる学びの場がある」は 53.9%で 4.7 ポイント上昇した。(○) イ・学校教育自己診断「朝の小テストは学力の向上や興味関心の向上に役立っている」は 52.7%にとどまった。(△) 次年度は意義の浸透を図るとともに効率的な実施方法を検討したい。 ウ・学校教育自己診断「補習や補講が生徒のニーズに沿って行われている」は 72.5%で 3.1 ポイント上昇した。(○) ・「自習室・ＬＣの開放は、学習時間の確保に役立っている」は活用の促進をアピールした結果、61.4%で 13.3 ポイントと大きく上昇した。(◎)
2.高い志を持ち進路実現をするためのキャリア教育を充実する。	（１）進路実現の意識の醸成 ア・ＦＮ等の充実	（１） ア・FN や進路別分野別説明会・大学見学・卒業生との対話集会等の充実を図る。 ・ＱＥの充実及び定着を行い、キャリア形成の充実を図る。	（１） ア・学校教育自己診断「ホームルームや『FN』などで進路や生き方について考える機会がある」（76.3%（H30））を３ポイント上昇 ・ＱＥに関するH30年度肯定感(77.8%)(H30))の現状を維持する	（１） ア・学校教育自己診断「ホームルームや『FN』などで進路や生き方について考える機会がある」は 77.5%で 1.2 ポイントの上昇にとどまった。(△) 次年度は進路や探究に関する取組みについて改善したい。 ・ＱＥに関する肯定感は 68.3%にとどまった。(△)
	イ・キャリアカウンセリングの充実	イ・キャリアカウンセリングを充実し、個々の生徒の学習状況・進路志望状況を把握し、進路実現への道筋を明確にする	イ・学校教育自己診断の「学力学習実態調査、実力テストや模試は、学習に取り組む態度を改善するために役立っている」（肯定感 55.7%（H30））を３ポイント上昇	イ・学校教育自己診断「学力学習実態調査、実力テストや模試は、学習に取り組む態度を改善するために役立っている」は 57.7%で２ポイントの上昇にとどまった。(○)
	（２）進学実績の向上。 ア・二つのコース間の切磋琢磨の促進	（２） ア・二つのコースのキャリア教育、特にスタンダードコースのキャリア教育に重点を置く。	（２） ア・学校教育自己診断の「本校のコース（アドバンスト・スタンダード両コース）は、学習環境の充実や進路実現に役立っている」（肯定感 71.3%（H30））を３ポイント上昇。また両コースの肯定感の差を３ポイント縮める（H30 両コースの差は、12.3 ポイント）	（２） ア・学校教育自己診断「本校のコース（アドバンスト・スタンダード両コース）は、学習環境の充実や進路実現に役立っている」は 75.2%で 3.9 ポイント上昇した。(○) ・両コースの肯定感の差は 12.8 ポイントで 0.5 ポイント拡大してしまった。(△)
	イ・進学実績の向上	イ・国公立大学及び難関私立大学の進学実績の向上を図る。	イ・実合格人数：国公立大学 20 名以上、関関同立近 120 名以上 （H30 年度卒 現役実人数：国公立 17 名、関関同立近 99 名）	イ・実合格人数：国公立大学 13 名、関関同立近 136 名

府立布施高等学校

3. 人と繋がり、社会と繋がり、世界と繋がる力の育成をめざす。	（1）自主活動を推進発展させる ア・行事・クラブ活動などの自主活動を促進	（1） ア・既存のシステムをより活性化させて、自主活動を促進し、コミュニケーション能力、組織力、マネジメント力を養う。	（1） ア・学校教育自己診断「ホームルーム活動は活発で、クラス全体で積極的に取り組んでいる。」（肯定感 71.7%（H30））、「創造祭・体育祭の学校行事に生徒が主体的に取り組めるように工夫されている。」（肯定感 77.3%（H30））「本校は、部活動や自治会活動などの自主的な力を伸ばしていく教育活動に力を入れている。」（肯定感 69.9%（H30））を３ポイント上昇。	（1） ア・学校教育自己診断「ホームルーム活動は活発で、クラス全体で積極的に取り組んでいる」は 75.8%、「創造祭・体育祭の学校行事に生徒が主体的に取り組めるように工夫されている」は 83.7%、「本校は、部活動や自治会活動などの自主的な力を伸ばしていく教育活動に力を入れている」は 76.5%で創造祭を２日開催としたことなどにより、３項目とも目標を大きく上回った。（◎）
	（2）グローバル資質の育成を推進する。 ア・グローバル資質の育成	（2） ア・海外語学研修、留学生の受け入れなどを促進し、グローバル資質の育成を行う。	（2） ア・学校教育自己診断「本校は、国際理解教育に力を入れている」（肯定感 63.9%（H30））を３ポイント上昇	（2） ア・学校教育自己診断「本校は、国際理解教育に力を入れている」は 69.4%で 5.5 ポイント上昇した。（◎）
	（3）ローカル資質の育成の推進 ア・学校説明会の充実	（3） ア・保護者、中学生徒、中学校教員への学校説明会の充実・拡大をはかる。	（3） ア・H31 年度入試の志願倍率を維持する。	（3） ア・定例の本校での説明会（３回）や合同説明会（２回）のほか、要請のあった中学校・市・塾等の説明会にはほぼ全て参加した。（○） ・令和２年度入試の志願倍率は 1.27 倍で昨年度より 0.1 倍下降した。（△）
	イ・地域連携強化	イ・学校運営協議会の発足を受け、司馬遼太郎館との連携をはじめ、中河地地区の大学、公共施設、民間団体などとの連携を図り、コミュニティスクールをめざす。	イ・学校教育自己診断「本校は、さまざまな地域の活動に参加・貢献している」（肯定感 50.1%（H30））を３ポイント向上。	イ・学校教育自己診断「本校は、さまざまな地域の活動に参加・貢献している」は司馬遼太郎記念館との連携推進などにより 76.7%で 26.6 ポイントと大きく上昇した。（◎）
	ウ・防災教育の推進	ウ・小中学校、地域、地元自治体と連携した防災活動を充実させる。	ウ・学校教育自己診断「本校で、地震や火災の際の対応は知らされている」（肯定感 77.3%（H30））を維持する	ウ・学校教育自己診断「本校で、地震や火災の際の対応は知らされている」は 70.3%にとどまった。（△）
	（4）自己を厳しく律する力と自尊心の育成 ア・挨拶指導・遅刻指導	（4） ア・挨拶指導・遅刻指導を促進する	（4） ア・年間遅刻回数を 2000 以下にする（H30 年 2327 件）	（4） ア・年間遅刻回数は 2259 件であった。（△）
	イ・教育相談委員会の活性化	イ・教育相談委員会の活性化、個別生徒支援の充実、教育相談研修の充実を図る。	イ・学校教育自己診断「学校は悩みや相談に親身になって応じてくれる」（肯定感 64.0%（H30））を３ポイント上昇	イ・学校教育自己診断「学校は悩みや相談に親身になって応じてくれる」は 67.9%で 3.9 ポイント上昇した。（○）

府立布施高等学校

４教職員集団（チーム布施高校）の育成	（１）教育課題に果敢に取り組む教職員集団の育成 ア・チームワークのある教職員集団の育成。	（１） ア・教職員の意識改革を行い、学校経営計画の実現に向けた組織運営を推進する。	（１） ア・学校教育自己診断「本校がめざす学校像を実現するために、教職員は同僚性をたかめ、協力して教育活動を行っている。」に変更した。（肯定感 56.3%（H30）を３ポイント上昇	（１） ア・学校教育自己診断「本校がめざす学校像を実現するために、教職員は同僚性をたかめ、協力して教育活動を行っている」は51.3%にとどまった。（△）
	イ・教職員の授業力・キャリア教育力の向上を図る。	イ・学校経営計画の１及び２を実行することにより、教職員の授業力・キャリア教育力の向上を図る。	イ・学校教育自己診断「学力のつく授業が多い。」（肯定感 63.4%（H30））「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく」（肯定感 43.7%（H30））学校教育自己診断「思考力・判断力・表現力を養う工夫をしている先生が多い」（肯定感 58.4%（H30））を３ポイント上昇	イ・学校教育自己診断「学力のつく授業が多い」は授業改善のための工夫により 72.6%と 8.7 ポイント上昇した。（◎） ・「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく」は 44.9%で 1.2 ポイント上昇にとどまった。（△）
	ウ・新たな教育課題に対応できる教職員集団の育成	ウ・校内研修の開催、校外研修への参加の促進、研究授業の実施を促進する。	ウ・学校教育自己診断「校内研修組織が確立し，計画的に研修が実施されている」（肯定感 56.3%（H30））アクティブ・ラーニング型授業の実践者を、45.6%（ｈ29）を３ポイント上昇	ウ・学校教育自己診断「校内研修組織が確立し，計画的に研修が実施されている」は 36.6%にとどまった。（△） ・アクティブ・ラーニング型授業の実践者は研修等の取組みにより意識が高まり 63.6%で 18 ポイントと大きく上昇した。（◎）
	エ・運営委員会の活性化、ミドルリーダーの育成、若手の力量向上	エ・運営委員会の議論の活性化、0JT の推進、若手教員の勉強会を推進し、教職員の力量向上を図る。	エ・学校教育自己診断に「運営委員会は、充分に機能している」（肯定感 72.8%（H30））「本校は、計画的に人材育成を行っている」（肯定感 62.5%（H30））を３ポイント上昇させる	エ・学校教育自己診断「運営委員会は、充分に機能している」は 69.8%にとどまった。（△） ・「本校は、計画的に人材育成を行っている」は 37.2%にとどまった。（△）
	オ・「働き方改革」の推進	オ・仕事の平準化・合理化に向けたアンケートを実施し、中期目標を設定する。 ・教科における「教材の共有化」を促進する。 ・学年マネージャーの設置によって、担任と担任外の仕事格差を縮小する。	オ・時間外労働を平成 30 年度から３%減する。 ・「教材の共有化の促進」（肯定感 37.5%（H30））を３ポイント上昇させる ・「担任と担任外の仕事格差の縮小」（肯定感 15.1%（H30））を 3 ポイント上昇させる。	オ・時間外労働は前年度比で 10.8%減ずることができた。（◎） ・「教材の共有化の促進」は取組みの意識が高まり 51.2%で 13.7 ポイントと大きく上昇した。（◎） ・「担任と担任外の仕事格差の縮小」は業務の精査により 20.9%と 5.8 ポイント上昇した。（◎）